

日本共産党品川区議会議員

菊地貞二

週刊区政ニュース第345号

07年10月07日発行

開発最優先の姿勢が明確な護岸工事

東五反田二丁目第二地区再開発



低くなる護岸部分

目黒川



廃止される道路

9月25日開催された総務委員会に3億7800万円の巨費を投じて再開発地域の護岸整備工事をおこなう旨の議案が提出されました。
貴重な税金を大手企業の開発に投入する行為です。

面倒な地権者を排除し、いびつな地区設定 税金を使って品質向上

約70億円の税金が注ぎ込まれます。

品川区は開発計画初案が示された時期に道路を拡幅しなければ開発が出来ないとして事業者にもソニー通りとの接続部分(ウラ面参照)を計画に入れるよう指導しています。また、計画地はいびつな形状となつていますが、これは権利が多数にわたるマンションなどを計画から排除したことによるものです。

東五反田二丁目第二地区は都市再生緊急整備地域に指定された60haの一角。写真右のクレーンから右奥に向かつて三井不動産が160m、地上44階建てのマンション(約750戸)

の建設工事が進んでいきます。また、写真左奥のタワークレーンは野村不動産の100メートル級ビルとなります。この再開発地区は総事業費が約420億円、そのうち補助金として

護岸工事に名を借りて

開発業者支援

総務委員会での質疑で護岸工事とは無縁なものであることが明確となりました。

① 今回の護岸工事は親水公園としての機能を持たせるために現在の護岸を切り下げ、水域を拡大するというものであること。

② 8千万円は国の補助金で残り2億9800万円は開発事業者の協力金で工事をおこなうとしているが話し合



いはついていない。

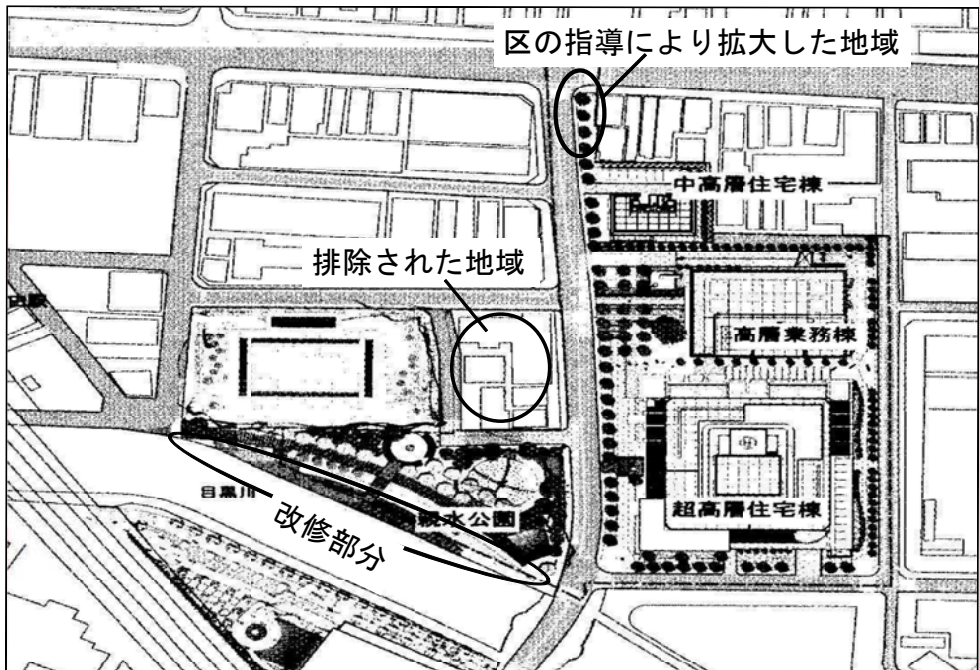
③ そもそも護岸工事は河川管理者である国や都が責任を負うもの。

そのため老朽化などによる改修、新設にしか工事費用はつかないこと。護岸の切り下げなど論外であること。

④ そのため、8千万円の補助金は環境整備費という名目。

護岸工事に名を借りた再開発の品質をあげるための工事であることはこうした答弁から明確です。そもそも10億円の補助金を投入する理由は、公共設備を行政に変わって整えてくれるからとしてい

ますが、近隣住民は超校の日野学園があり、高層ビルの建設では居5時間もの日陰を作り住環境が悪化すると反出します。対してはいます。しかもこんな計画で「街の地図右の160mマンクオリティがあがる」シオン横には小中一貫などは言えません。



無料法律相談会

(生活相談は随時)

ところ すずらん通り事務所

日時 10月11日(木)

午後6時～8時



館田まちづくりセンター(080-1000-1000)の電話予約をお願いします。